

環境学委員会 環境思想・環境教育分科会
環境教育の思想的アプローチ検討小委員会（第25期・第3回）
議事要旨

日時：2022年5月19日（木）9:00～11:00

会場：オンライン会議

参加者（敬称略・五十音順）：清野未恵子、黒田一雄、重藤さわ子、高田知紀、豊田光世、二宮咲子、野田真里

オブザーバー：関礼子

欠席：蟹江憲史、永井三枝子

*委員9名中7名の出席により会議は成立した。

議題：

1. 前回委員会のふりかえり

豊田委員より、前回委員会での高田委員による報告内容のふりかえりと共有がなされた。

2. 野田委員の報告

野田委員より、サステナビリティを仏教的アプローチから研究する視覚として、仏教由来の「共生」、「開発^{かいほつ}」、「縁起」等をキーワードに、SDGsの経済・社会・環境のサステナビリティやESD等について、仏教思想を中心に Engaged Buddhism 等踏まえて報告がなされた。

3. 報告に対する質疑応答

野田委員の報告内容をもとに、他の委員との質疑応答がなされた。

仏教の思想とSDGs（特にターゲット4.7）の関連、環境教育への示唆、仏教から発想する意味や「西洋的」「東洋的」思想がもたらす環境教育の相違についての活発な意見交換がみられた。SDGsやESDのローカライゼーションの重要性が確認され、ローカライズの仕方は仏教的アプローチを含めて国や地域によって異なるものであるという点や、SDGsの原本を読むこと、本質を考えること、つながりの環境教育をすべきであるという意見は多くの委員に共通していた。環境教育と価値・思想の関係性の整理や制度化については前回の高田委員の報告に続き、重要な論点として確認された。

4. 今後の活動

委員による研究報告と同時に小委員会の成果を広く共有する場としてのシンポジウムの企画を検討する。

以上